



君の瞳に乾杯



私には遅くないわ



30年後にまた会おう

企画展

# 映画字幕翻訳の仕事

## 1秒4文字の魔術

The Art of Film Subtitle Translation - Infusing Magic into 4 Characters per Second



戦後、セントラル映画社が設置された新橋・兼坂ビル  
アメリカ映画9社のネオン

企画展観覧料

一般200(140)円

小・中学生100(70)円

※( )内は20名以上の団体料金

### 2025.1.19(日) - 3.30(日)

鎌倉市川喜多映画記念館



書く材料に困ったら  
ぼくらのことを書け



一体あいつらは誰だ



大丈夫 私は私で  
やつてくわ



妙だね 何も無い所に  
撒いてる



十年前に逢いたかった



誰でも変われるはずだ

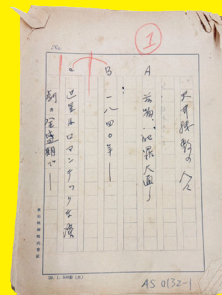
# 映画字幕翻訳の仕事

## 1秒4文字の魔術

The Art of Film Subtitle Translation - Infusing Magic into 4 Characters per Second

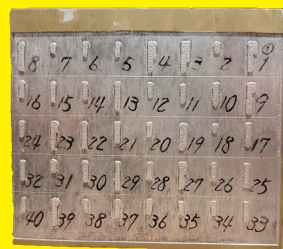
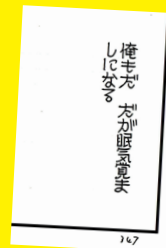
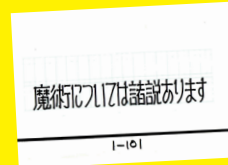
日本では外国映画を鑑賞する際、伝統的に吹き替えではなく字幕をつけて観ることが好まれ、戦前から主流となってきました。必然的に映画字幕の文化は高度に発達し、目で瞬時に読むのに適した字数や字幕の出るタイミングなど、作り方の骨組みが確立されました。フィルムの上に字幕をのせることから「スーパーインポーズド・タイトルズ (superimposed titles)」と呼ばれるこの特殊技能は、日本では「スーパー字幕／字幕スーパー」と呼ばれています。初の日本語スーパー字幕付き映画は1931年公開の『モロッコ』で、以来外国映画には優れた翻訳者たちの手によっていくつもの名訳が刻み込まれてきたのです。この『モロッコ』の字幕を手がけた田村幸彦に抜擢され、スーパー字幕の“専門職第一号”となった清水俊二をはじめ、『カサブランカ』(1942年)で「君の瞳に乾杯」という名訳を生み出した高瀬鎮夫、川喜多夫妻が日本に紹介した『天井桟敷の人々』(1945年)や『第三の男』(1949年)、『禁じられた遊び』(1952年)など欧州映画の名作を翻訳した秘田余四郎…と、これまで卓越した職人たちが映画全盛の時代を陰で支え、字幕文化の道を拓いてきました。

本企画展では、かつてタイトル・ライターが字幕カードを手書きしていた時代の制作プロセスやその歴史の変遷、映画字幕翻訳の仕事にまつわる事柄を関連資料とともに振り返ります。また、字幕翻訳者が選出した「思い出の名セリフ」の数々を、映画イラストレーターとして知られる宮崎祐治のイラストとともに紹介します。



『天井桟敷の人々』  
秘田余四郎直筆の字幕原稿

字幕カード  
(タイトル・カード)



字幕を打ち込むための銅板

\*表紙のセントラル映画社(CMPE)は、終戦後しばらくハリウッド各社の映画を一括配給していた。新橋・兼坂ビル内には字幕制作部があった。

展示協力: ACクリエイト、映画美術学校、映画翻訳家協会、鎌倉文学館、国立映画アーカイブ、日本シネアーツ社、  
稲田巖裕里、小野里 徹 (POSTER-MAN) (敬称略)

イラストレーション: 宮崎祐治 中面デザイン: 相馬敬徳

2025.2.15(土) 14:00

トークイベント

### 血の通った字幕をつくるために

菊地浩司さん(字幕翻訳者) × 石田泰子さん(字幕翻訳者)

菊地浩司さん(『スタンド・バイ・ミー』『オーシャンズ11』など)は、1983年に「ACクリエイト株式会社」を創設し、翻訳のかたわら外国映画・ドラマの日本語版(字幕/吹替)の制作を手がけるようになります。この時代はビデオの普及により、劇場用字幕(縦書き)をビデオ用(横書き)に書き換える仕事が急増しました。石田泰子さん(『トレインスポッティング』『ラ・ラ・ランド』など)は、85年にACクリエイトで手ほどきを受け、字幕翻訳の世界に足を踏み入れました。数々の話題作を翻訳し、現在も第一線で活躍されているお二人に、字幕を生み出すための工夫や呻吟、制作部との打ち合わせの中で見えてくるものなどをお話しいただきます。



料金: 一般1000円、小・中学生500円  
チケット発売日: 1月11日(土)

2025.3.29(土) 13:00

特別上映

### 『瞳をとじて』+トークイベント

原田りえさん(字幕翻訳者)

4カ国語(英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語)の映画字幕翻訳者であり、本作の字幕も手がけている原田りえさん(『たかが世界の終わり』『永遠に僕のもの』など)をお招きし、上映後にお話を伺います。ビクトル・エリセ監督の過去作とも繋がる重要なセリフのことや、多言語を翻訳する楽しさ・難しさ、映画祭と劇場公開作にそれぞれ携わるときの違いや魅力などを語っていただきます。



料金: 一般1600円、小・中学生800円  
チケット発売日: 2月8日(土)

#### 企画展観覧料

一般 200円(140円)

小・中学生 100円(70円) \*()内は20名以上の団体

\*鎌倉市民は展示観覧料が無料です。

入館時に住所が確認できる証明書をご提示ください。

#### 映画鑑賞・トークイベント

一般 1000円 小・中学生 500円(展示観覧料含む)

#### 特別上映

一般 1600円 小・中学生 800円(展示観覧料含む)

#### チケット発売開始日

1月の上映作品(①~②):1月5日(日)

2月の上映作品(③~⑧):1月11日(土)

3月の上映作品(⑨~⑫):2月8日(土)

\*友の会会員の方は、指定の期間に電話予約が可能です。

#### チケット販売場所

鎌倉市川喜多映画記念館窓口 0467-23-2500

\*作品により映像・音声必ずしも良好でないものがあります。

場合によっては上映素材・作品の変更があることをご了承ください。また当館では2K上映となります。



### 1

**モロッコ**  
 1.28(火) 10:30  
 1.29(水)・31(金)・2.2(日) 14:00  
 1930年/アメリカ/白黒/91分/DVD  
 監督：ジョセフ・フォン・スタンバーグ  
 出演：ゲイリー・クーパー、マレーネ・ディートリッヒ、アドルフ・マンジュ

日本で初めてスーパー字幕がついた外国映画。外人部隊のプレイボーイを演じたゲイリー・クーパーは、本国より一足早く日本で人気が火がついた。酒場の歌姫にディートリッヒが扮し、熱砂の地を舞台に燃ゆる二人のロマンスは数々の名シーンを生んだ。



### 2

**邂逅(めぐりあい)**  
 2.2(日) 10:30  
 1.28(火)・30(木)・2.1(土) 14:00  
 1939年/アメリカ/白黒/87分/DVD  
 監督：レオ・マッケリー  
 出演：アイリーン・ダン、シャルル・ボワイエ、マリア・オースペンスカヤ

豪華客船で出逢った二人が半年後にエンパイアステートビルの展望台での再会を誓う。のちにデボラ・カーとケイリー・グラントが主演したカラー版『めぐり逢い』は、マッケリー監督が自らリメイクしたもの。ピンク・シャンペンにまつわるセリフが印象的。



### 3

**第三の男**  
 2.11(火・祝)・16(日) 10:30  
 2.12(水)・14(金) 14:00  
 1949年/イギリス/白黒/100分/DVD  
 監督：キャロル・リード  
 出演：ジョセフ・コットン、アリダ・ヴァリ、オーソン・ウェルズ、トレヴァー・ハワード

舞台は第二次大戦後の廃墟と化したウィーン。アメリカ人の作家が旧友の死の真相を探るサスペンス映画の金字塔。観覧車のシーンのハリ・ライム(オーソン・ウェルズ)のセリフや「今夜の酒は荒れそうだ」の名訳を生み出したのは字幕の名工・秘田余四郎。



### 4

**死刑台のエレベーター**  
 [ニュープリント版]  
 2.12(水)・14(金)・15(土) 10:30  
 2.11(火・祝)・13(木)・16(日) 14:00  
 1957年/フランス/白黒/92分/35mm  
 監督：ルイ・マル  
 出演：ジャンヌ・モロー、モーリス・ロネ、リノ・ヴァンチュラ、ジョルジュ・ブージュリー

社長夫人とその愛人が目論む夫殺しの完全犯罪が、エレベーターの停止によって狂ってゆく。ジャンヌ・モローが夜の街をさまよひ、マイルス・デイヴィスの演奏が哀調を帯びた独特の雰囲気醸し出した。「ジュテーム」を繰り返す冒頭の電話も忘れ難い。



### 5

**思春期**  
 旧題：ジャンヌ・モローの思春期  
 2.18(火)・20(木)・22(土) 10:30  
 2.19(水)・21(金)・23(日・祝) 14:00  
 1979年/フランス/カラー/94分/DCP  
 監督：ジャンヌ・モロー  
 出演：レティシア・ショヴォー、シモーヌ・シニョレ、フランシス・ユステール

ジャンヌ・モローの監督第2作。戦争の足音が迫る1939年のフランスで、田舎の祖母のもとに両親と遊びにきた12歳の少女のひと夏の経験を描く。女優シモーヌ・シニョレが少女を見守る祖母を演じ、優しくさとすように語りかける言葉が心に響く。



### 6

**ローラ**  
 2.19(水)・21(金)・23(日・祝) 10:30  
 2.18(火)・20(木)・22(土) 14:00  
 1961年/フランス/白黒/88分/DCP  
 監督：ジャック・ドゥミ  
 出演：アヌク・エーメ、マルク・ミシェル、ジャック・アルダン、コリンヌ・マルシャン

冒頭に紹介される中国の諺「泣きたい者は泣き、笑いたい者は笑え」が示すように、ローラをはじめ登場人物たちはそれぞれの運命に翻弄されながら、出会いと別れを繰り返してゆく。港町ナントを舞台に、恋の哀歌を綴ったジャック・ドゥミの初長編作。



### 7

**愛と哀しみの果て**  
 2.24(月・振)・3.1(土) 10:00  
 2.26(水)・28(金)・3.2(日) 14:00  
 1985年/アメリカ/カラー/161分/DCP  
 監督：シドニー・ポラック  
 出演：メル・ストリーブ、ロバート・レッドフォード、クラウス・マリア・ブランドアウアー

『バベットの晩餐会』の原作者、カレン・ブリンクセンの自伝小説『アフリカの日々』を映画化。レッドフォードが演じた冒険家の「他人の考えた生き方で人生を生きるなんて、まっぴらだ」というセリフが彼の性格とアフリカでの型破りな生活を象徴している。



### 8

**プライベート・ライアン** PG12  
 2.26(水)・3.2(日) 10:00  
 2.24(月・振)・27(木)・3.1(土) 13:30  
 1998年/アメリカ/カラー/169分/DCP  
 監督：スティーヴン・スピルバーグ  
 出演：トム・ハンクス、マット・デイモン、エドワード・バーンズ、トム・サイズモア

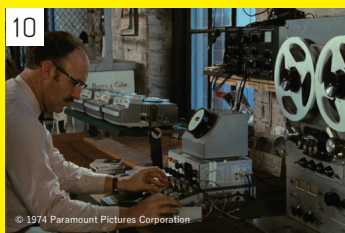
ノルマンディー上陸作戦で行方不明となった一人の兵士の救出に向かう部隊を描いた、スピルバーグ渾身の戦場ドラマ。トム・ハンクス演じるミラー大尉の「気の進む任務がどこに？」という問いかけが、戦争自体の理不尽を端的に言い表している。



### 9

**スティング**  
 3.11(火)・15(土) 10:30  
 3.12(水)・14(金)・16(日) 14:00  
 1973年/アメリカ/カラー/129分/DCP  
 監督：ジョージ・ロイ・ヒル  
 出演：ポール・ニューマン、ロバート・レッドフォード、ロバート・ショウ、チャールズ・ダーニング

1936年のシカゴで、詐欺師コンビが仲間を殺害したギャングに復讐すべく一世一代の大勝負に出る。時代を再現するための衣裳・美術・音楽に加え、全6幕の見出しに30年代雑誌調の字体や色調の挿絵をインサート。字幕にも粋な配慮がなされている。



### 10

**カンパセーション…盗聴…**  
 [4Kレストア版]  
 3.12(水)・14(金)・16(日) 10:30  
 3.11(火)・13(木)・15(土) 14:00  
 1974年/アメリカ/カラー/113分/DCP  
 監督：フランシス・フォード・コッポラ  
 出演：ジーン・ハックマン、ジョン・カザール、アレン・ガーフィールド、ハリソン・フォード

いつもは「好奇心は禁物」とプロの流儀に徹する盗聴屋が、ユニオンスクエアである男女の会話を録音したことから思わぬ事態に巻き込まれてゆく。ウォーターゲート事件の盗聴テープを解析した実在の私立探偵が主人公の部分的モデルとなっている。



### 11

**瞳をとじて**  
 3.25(火)・27(木)・30(日) 10:00  
 3.26(水)・28(金) 13:30  
 3.29(土) [特別上映] 13:00  
 2023年/スペイン/カラー/169分/DCP  
 監督：ピクトル・エリセ  
 出演：マノロ・ソロ、ホセ・コロナド、アナ・トレント

22年前、撮影中に失踪した俳優の“かくも長き不在”を、当時の映画監督であった主人公がTV番組の取材をきっかけに追想する。エリセの代表作『ミツバチのささやき』で少女アナを演じたアナ・トレントが、50年ぶりに再び“アナ”の役を演じている。



### 12

**神の道化師、フランチェスコ**  
 [デジタル・リマスター版]  
 3.26(水)・29(土) 10:30  
 3.25(火)・27(木)・30(日) 14:00  
 1950年/イタリア/白黒/86分/DCP  
 監督：ロベルト・ロッセリーニ  
 出演：ナザリオ・ジェラルディ、アルド・ファブリッツィ、セヴェリーノ・ピサカネ

聖人フランチェスコの事績と、彼を慕う修道士たちの素朴な暮らしをユーモラスに描く。ロッセリーニとフェリーニによる共同脚本で全10篇の構成。「貧しき者を救え」という教えに従い、物乞いに僧衣をあげてしまう無垢な使徒ジネプロが陰の立役者。

### 上映作品の字幕翻訳者

- ①『モロッコ』 不明
  - ⑤『思春期』 横井和子
  - ⑥『スティング』 不明
  - ②『邂逅(めぐりあい)』 不明
  - ⑦『愛と哀しみの果て』 戸田奈津子
  - ⑧『プライベート・ライアン』 戸田奈津子
  - ③『第三の男』 不明
  - ⑧『カンパセーション…盗聴…』 清水俊二
  - ④『死刑台のエレベーター』 塩谷真介
  - ⑨『瞳をとじて』 原田りえ
  - ⑩『神の道化師、フランチェスコ』 関口英子
- ※①～③、⑧は初公開時の字幕と異なります。あらかじめご了承ください。



# Screening Schedule

1月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.1.5(日)	28(火)	10:30 モロッコ (91分)	14:00 邂逅(めぐりあい) (87分)
		29(水)		14:00 モロッコ (91分)
		30(木)		14:00 邂逅(めぐりあい) (87分)
		31(金)		14:00 モロッコ (91分)
		1(土)		14:00 邂逅(めぐりあい) (87分)
		2(日)	10:30 邂逅(めぐりあい) (87分)	14:00 モロッコ (91分)
2月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.1.11(土)	8(土)		14:00 満月、世界 (66分)+アフタートーク*1
		9(日)	10:30 満月、世界 (66分)	14:00 満月、世界 (66分)+上映解説
		11(火・祝)	10:30 第三の男 (100分)	14:00 死刑台のエレベーター (92分)
		12(水)	10:30 死刑台のエレベーター (92分)	14:00 第三の男 (100分)
		13(木)		14:00 死刑台のエレベーター (92分)
		14(金)	10:30 死刑台のエレベーター (92分)	14:00 第三の男 (100分)
15(土)	10:30 死刑台のエレベーター (92分)	14:00 トークイベント「血の通った字幕をつくるために」*2		
16(日)	10:30 第三の男 (100分)	14:00 死刑台のエレベーター (92分)		
2月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.1.11(土)	18(火)	10:30 思春期 (94分)	14:00 ローラ (88分)
		19(水)	10:30 ローラ (88分)	14:00 思春期 (94分)
		20(木)	10:30 思春期 (94分)	14:00 ローラ (88分)
		21(金)	10:30 ローラ (88分)	14:00 思春期 (94分)
		22(土)	10:30 思春期 (94分)	14:00 ローラ (88分)
		23(日・祝)	10:30 ローラ (88分)	14:00 思春期 (94分)
2月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.1.11(土)	24(月・振)	10:00 愛と哀しみの果て (161分)	13:30 プライベート・ライアン (169分)
		25(火)	休館日	
		26(水)	10:00 プライベート・ライアン (169分)	14:00 愛と哀しみの果て (161分)
		27(木)		13:30 プライベート・ライアン (169分)
		28(金)		14:00 愛と哀しみの果て (161分)
		1(土)	10:00 愛と哀しみの果て (161分)	13:30 プライベート・ライアン (169分)
2(日)	10:00 プライベート・ライアン (169分)	14:00 愛と哀しみの果て (161分)		
2月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.2.8(土)	11(火)	10:30 スティング (129分)	14:00 カンパセーション…盗聴… (113分)
		12(水)	10:30 カンパセーション…盗聴… (113分)	14:00 スティング (129分)
		13(木)		14:00 カンパセーション…盗聴… (113分)
		14(金)	10:30 カンパセーション…盗聴… (113分)	14:00 スティング (129分)
		15(土)	10:30 スティング (129分)	14:00 カンパセーション…盗聴… (113分)+上映解説
		16(日)	10:30 カンパセーション…盗聴… (113分)	14:00 スティング (129分)
3月	シネマセレクション <b>生誕100年の映画人</b> チケット発売日 2025.2.8(土)	18(火)	10:00 八甲田山 (169分)	14:00 ゼロの焦点 (95分)
		19(水)	10:30 黒い十人の女 (103分)	13:30 八甲田山 (169分)
		20(木・祝)	10:30 ゼロの焦点 (95分)	14:00 黒い十人の女 (103分)
		21(金)	10:30 ゼロの焦点 (95分)	14:00 黒い十人の女 (103分)
		22(土)	10:00 八甲田山 (169分)	14:00 黒い十人の女 (103分)
		23(日)	10:00 八甲田山 (169分)	14:00 ゼロの焦点 (95分)
2月	関連上映 <b>映画字幕翻訳の仕事</b> チケット発売日 2025.2.8(土)	25(火)	10:00 瞳をとじて (169分)	14:00 神の道化師、フランチェスコ (86分)
		26(水)	10:30 神の道化師、フランチェスコ (86分)	13:30 瞳をとじて (169分)
		27(木)	10:00 瞳をとじて (169分)	14:00 神の道化師、フランチェスコ (86分)
		28(金)		13:30 瞳をとじて (169分)
		29(土)	10:30 神の道化師、フランチェスコ (86分)	13:00 [特別上映]瞳をとじて(169分)+トークイベント*3
		30(日)	10:00 瞳をとじて (169分)	14:00 神の道化師、フランチェスコ (86分)

\*1 トークゲスト：塚田万理奈さん (映画監督) \*2 トークゲスト：菊地浩司さん (字幕翻訳者) ×石田泰子さん (字幕翻訳者) \*3 トークゲスト：原田りえさん (字幕翻訳者)



Kamakura City Kawakita Film Museum  
 鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

0467-23-2500

開館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(2月24日は開館)、2月25日(火)

主催：川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)

※駐車設備がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。詳しくはお問合せください。

<https://kamakura-kawakita.org>



## ギャラリートーク/上映解説

(要企画展観覧料/各40分)

展示の見どころ/上映作品について、学芸員が解説します。

## ギャラリートーク

2.28(金)・3.21(金) 各日13:00~

※終了後、(希望者のみ)旧和辻郎見学ツアーあり(約10分)

## 上映解説

2.9(日)・3.15(土) 各日午後の上映終了後